

30周年記念シンポジウム「21世紀の農業と環境」

農業環境技術研究所の設立30周年を記念して、平成25年12月13日(金)、新宿明治安田生命ホールにおいて「農業環境技術研究所30周年記念シンポジウム『21世紀の農業と環境』」を開催しました。シンポジウムでは、総合地球環境学研究所の安成哲三所長をお迎えして基調講演をいただくとともに、農環研の研究者から、30年間の研究の流れと最新の研究成果について、特別報告と研究トピックスにより紹介しました。また、各方面の有識者をお招きしたパネルディスカッションでは、「21世紀の農業環境研究」をテーマに、今後の研究方向について議論しました。

平成25年度には、このメインシンポジウムの他に、研究分野ごとの記念行事を開催しています。一覧は別表の通りです。

30周年記念研究会・セミナー

開催日	タイトル
2013年 10.30	野菜におけるPOPs 農業残留リスク低減技術の開発 (第13回有機化学物質研究会)
10.31	作物産地インテリジェンスへの空間情報技術の戦略的利用に向けて
11.5	生き物のにぎわいを支える豊かな農業
12.2	農業気象分野の国際研究ネットワークとその連携 (第27回気象環境研究会)
2014年 2.14	リモートセンシングの食糧インテリジェンスへの戦略的利用に向けて
2.26	農作物によるカドミウム・ヒ素の吸収とそのリスク管理 (第31回土・水研究会)
2.27	農業等化学物質リスク評価を効率的に行うためのインベントリーの構築 (第4回農業環境インベントリー研究会)
3.7	核酸から見てきた農業に関わる微生物の生態と機能

(詳細はHPにて http://www.niaes.go.jp/sinfo/sympo/sympo_past.html)

基調講演

Future Earth : アジアの環境研究における意義

人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 所長 安成 哲三

基調講演には、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所の安成哲三所長をお迎えし、2013年春に正式提案された新たな地球環境変化研究のための国際プログラムであるFuture Earthを紹介いただくとともに、モンスーンアジアにおけるFuture Earthの重要性について説明いただきました。安成所長は、Future Earthの国際科学委員会のメンバーであり、日本学術会議のFuture Earth推進委員長としての重責を担われています。

講演では、まず地球環境の現状について、20世紀

の急激な人間活動の増加により「限界(平衡を崩すレベル=ティッピング・ポイント)」を越えつつあることを説明されました。その上で、地球環境変化によるリスクに向き合うためには、社会全体から必要とされる知を結集し、持続可能な地球社会への転換を促進することが不可欠であり、その実現のためにFuture Earthが設立された経緯を紹介いただきました。

また、モンスーンアジア地域について、地殻の大変動帯に位置する自然環境が水田稲作農業の成立を可能とし、それを基盤に世界最大の人口が養われてきた一方、今日の急速な「近代化」と「グローバリゼーション」により「地球規模での汚染のホットスポット」となっていることを説明されました。そして、この現状を踏まえ、アジア全体で持続可能な社会への転換を進めるためには、研究者、政策担当者および市民を含む国際的な枠組み、すなわちFuture Earth in Asiaの構築が重要かつ緊急であると論じられました。

(企画戦略室長 山本 勝利)

